

● 株主メモ

決算期 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月中
基準日 定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日 利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

1単元の株式の数 100株
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
UFJ信託銀行株式会社
大阪支店 証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村証券株式会社 全国本支店

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)
0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪支店証券代行部)
ホームページ
<http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

公告掲載新聞 日本経済新聞

○なお、貸借対照表および損益計算書に関する情報は、当社ホーム
ページをご覧ください。

<http://www.capcom.co.jp/ir/finance/publicinfo.html>

上場証券取引所 東京・大阪証券取引所

株式会社 **カプコン**

CAPCOM

第26期 事業報告書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

(証券コード 9697)



「ロックマン エグゼ5」

© CAPCOM CO., LTD. 2004, 2005 ALL RIGHTS RESERVED.

会社の概要

(平成17年3月31日現在)

社名	株式会社 カプコン (CAPCOM CO.,LTD.)
設立	昭和54年5月30日
主要な事業内容	家庭用テレビゲームソフトの企画、開発、販売ならびにアミューズメント施設の運営
資本金	275億81百万円
従業員数	971名(連結 1,175名)
主要な事業所	本社 大阪市中央区内平野町三丁目1番3号 研究開発ビル 大阪市中央区内平野町三丁目2番8号 東京支店 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 上野事業所 三重県伊賀市治田3902番地
ホームページ	http://www.capcom.co.jp/

目次

会社の概要	1
株主の皆様へ	2
財務ハイライト	4
営業の概況	5
トピックス	7
連結財務諸表	8
単独財務諸表	10
株式の状況	12
子法人等の状況/役員の状況	13

株主の皆様へ

To Our Shareholders



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに当社グループ第26期(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)の営業の概況と決算についてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な個人消費や設備投資に加え、雇用環境の改善も見られましたものの、輸出の鈍化や原油高、在庫調整の持続などにより、景気は踊り場を脱却できませんでした。

当業界におきましては、国内の家庭用ゲーム市場はユーザー消費の分散化やライフスタイルの多様化に加え、中古市場の影響などにより成熟化が進む状況下、昨年12月に新型携帯ゲーム機の「ニンテンドーDS」および「プレイステーション・ポータブル(PSP)」が登場したことにより、年末商戦が盛り上がりとともに、据え置き型ゲーム機用ソフトも昨年末から今年にかけて、大作タイトルの投入が相次いだこともあって活況を呈しました。

また、アミューズメント施設は昨年のアテネ五輪や猛暑な

ど一過性要因による影響も重なって既存店は伸び悩みましたものの、集客力が見込まれるショッピングセンターに出店した店舗等において趣向を凝らしたゲーム機の設置、ネットワークゲームの導入や親子連れの増加などもあって、総じて堅調に推移いたしました。

加えて、ブロードバンド(高速大容量)通信の普及やインターネットカフェの増加などに伴い、事業領域の拡大を目指してオンラインゲーム市場も活発化してまいりました。

一方、海外はハードの値下げ効果に加え、有力ソフトの発売や映画、スポーツを題材にしたゲームが健闘したこともあって、欧米市場が順調に推移いたしました。

こうした環境のもと、当企業集団は、機動的なマーケティング戦略により市場ニーズに適合したソフト開発や顧客志向に立った商品を投入するとともに、他社との連携により商品ラインナップを充実するなど、豊富な品揃えにより積極的な商品展開を行ってまいりました。また、国内外において携帯電話向けゲーム配信に注力したほか、書籍流通によるゲームソフト販売を図るなど、多面的なコンテンツ事業を推し進めてまいりました。

さらに、新規事業戦略の一環として、新たな収益基盤を求めてパチスロ機向け液晶表示基板の供給に取り組んだ結果、大きな成果を挙げることができ業績向上に寄与いたしました。

他方、ゲームソフトとの相乗展開を図るため、「ロックマン エグゼ」の映画化や「ビューティフル ジョー」のテレビアニメ化など、様々なメディアミックス展開を進めてまいりました。

とりわけ「バイオハザード」を題材にしたハリウッド映画「バイオハザードⅡ アポカリプス」が全世界で上映され、大ヒットしたことにより、国際的な知名度の向上やブランド価値の増大など副次的効果をもたらしました。

また、市場環境の変化に対応して、グローバルな企業展開を推し進めるとともに、事業ポートフォリオの最適化を図るため、開発部門の分社化や不採算事業からの撤退など、経営資源の選択と集中によりグループ会社のスクラップ・アンド・ビルドを行い、国内外の関係会社を含めた構造改革により企業体質の強化、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、連結売上高は658億95百万円(前期比25.1%増)と伸長することができました。

利益面につきましては、連結経常利益は売上増やコストダウンにより73億99百万円(前期比835.4%増)、連結当期純利益は36億22百万円(前期は91億58百万円の連結当期純損失)となりました。

なお、当期の利益配当金につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。

今後の見通しといたしましては、昨年末に相次いで登場した新型携帯ゲーム機がけん引役となり、ファミコン世代や女性層などの新規需要を喚起するとともに、国内外のユーザー層の拡大などにより、市場全体を押し上げることも期待されます。

一方、近い将来に予想される次世代据え置き型ゲーム機の登場を控え、事業環境は端境期に入ることも予測されます。加えて、家庭用ゲーム機は日進月歩で進化しており、無線LAN(構内情報通信網)対応など高性能、多機能化に対応した開発体制づくりが急務になると思われます。

また、国内の競合会社に加え、海外のゲームメーカーも日本に足場を築き始めるなど攻勢を強めており、競争環境は一段と厳しくなるものと予想されます。

このような状況のもと、当企業集団といたしましては、中長期的な戦略マップに基づきコア・コンピタンス(中核的競争力)である開発部門の充実強化や新ジャンルの開拓、マ

ーケティング体制の強化などにより、多様な顧客ニーズに対応した商品を投入し、既存市場の深耕と新規市場の開拓を図ってまいります。

さらに、グループ全体の一元管理やマネジメント機能を強化するため、テレビ会議システムなど企業間ネットワークの拡充により、情報の共有化や意思決定の迅速化を図るとともに、業務の効率化やコスト削減など経営全般にわたる合理化を推進してまいります。

加えて、連結経営戦略の重点分野である海外展開の強化を図るため、優秀な人材の確保や育成を行うとともに、現地法人の拡充やユーザーニーズに即応できる体制を構築し、顧客満足度の向上により競争の優位性を確保するなど、環境の変化に対応できる経営体質の確立に取り組んでまいります。

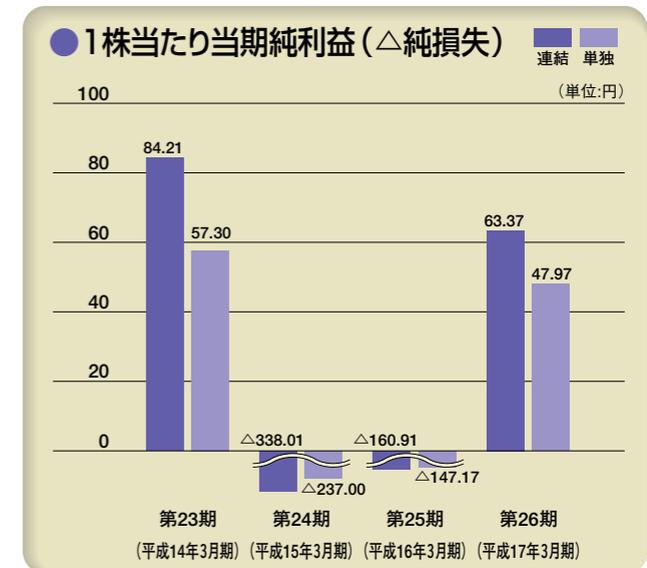
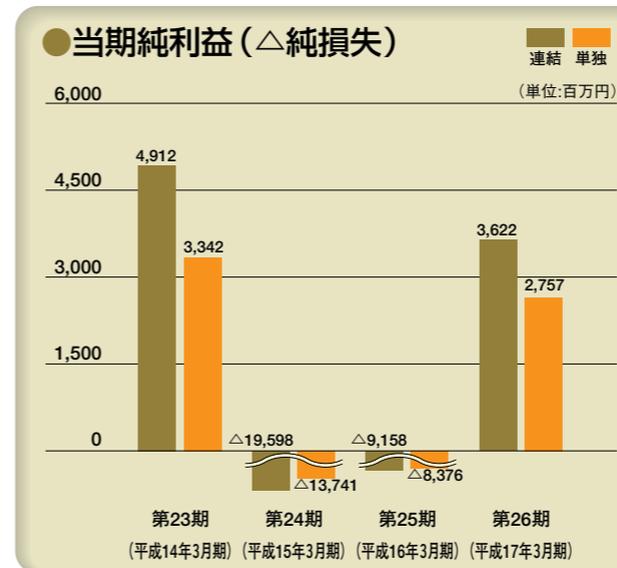
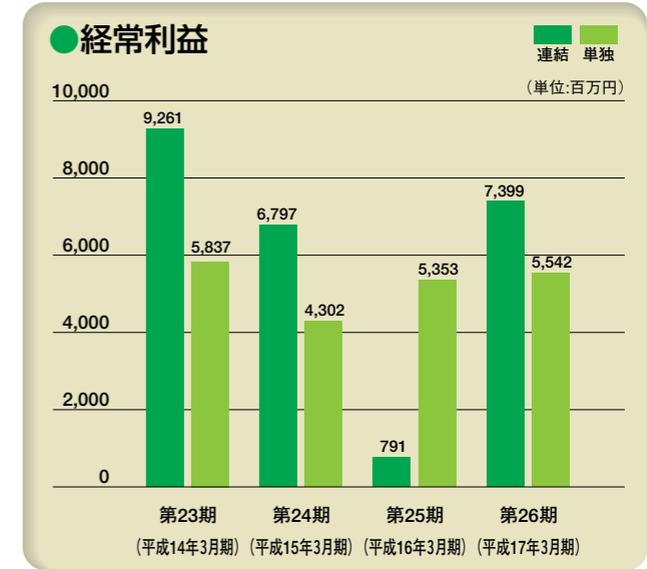
なお、当社は企業を取り巻く環境の変化に対応して、株主、顧客、従業員、地域社会など多様化したステークホルダー(利害関係者)との信頼構築や社会の構成員としての責任を果たすため、CSR(企業の社会的責任)の充実に取り組んでおります。

このため、内部統制が有効に機能するよう、リスク管理体制の整備やコンプライアンス(法令遵守)体制の強化を推し進めるとともに、適法性の確保や透明性、公平性の向上により経営倫理の高揚や企業価値の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

代表取締役社長 三 憲 三



コンシューマ用機器部門

当部門におきましては、国内では、「グランド・セフト・オート・バイシティ」（プレイステーション2用）が輸入タイトルとしては、前作に続いてヒットを放ったことに加え、オンライン対応ゲームの「モンスターハンターG」（プレイステーション2用）も気を吐くとともに、ゲームボーイアドバンス向けの「ロックマン エグゼ5」や「ロックマン ゼロ3」などのロックマンシリーズも底固い売行きを示しました。

また、シリーズ最新作の「バイオハザード4」（ニンテンドーゲームキューブ用）も定着したブランドやコアユーザーに支えられ堅調に推移いたしました。

しかしながら、プレイステーション2向けの「バイオハザード アウトブレイク FILE2」や「デビル メイ クライ3」は伸び悩むとともに、「ビューティフル ジョー2」（プレイステーション2・ニンテンドーゲームキューブ用）も弱含みに展開いたしました。

一方、海外におきましては、「バイオハザード4」（ニンテンドーゲームキューブ用）、「デビル メイ クライ3」（プレイステーション2用）や「バイオハザード アウトブレイク」（プレイステーション2用）が堅調な欧米市場に支えられ、おおむね順調に販売を伸ばすとともに、廉価版ソフトも続伸いたしました。

この結果、売上高は399億85百万円（うち海外売上高235億34百万円）となり、前期に比べ60億35百万円の増収（前期比17.8%増）となりました。

©CAPCOM CO., LTD. 2004, 2005 ALL RIGHTS RESERVED.

©CAPCOM CO., LTD. 2004, 2005 ALL RIGHTS RESERVED.

©CAPCOM CO., LTD. 2005 ALL RIGHTS RESERVED.



「モンスターハンターG」
（プレイステーション2用ソフト）
オンラインゲームとしても好評を博しています。



「ロックマン エグゼ5」
（ゲームボーイアドバンス用ソフト）

テレビアニメ化や映画化により、知名度が向上しました。



「バイオハザード4」
（ニンテンドーゲームキューブ用ソフト）

本年末にはプレイステーション2用でも発売される予定です。

アミューズメント施設部門

当部門におきましては、「地域一番店」を基本戦略として、清潔で明るく、快適な店舗運営をコンセプトに、店舗のリニューアルや多彩なイベント、サービスデーの実施など、地域密着型の集客展開により顧客の囲い込みや需要の掘り起こしに注力してまいりました。

新規出店といたしましては、静岡県下最大級の複合商業施設に「プラサカブコン志都呂店」をオープンするとともに、不採算店3店舗を閉鎖するなど、戦略的な施設展開により収益の向上に努めてまいりました。これにより、当施設は30店舗となっております。

この結果、売上高は109億34百万円となり、前期に比べ11億4百万円の増収（前期比11.2%増）となりました。

業務用機器部門

当部門におきましては、ビデオゲーム機「機動戦士Zガンダム エウゴ VS. ティターンズDX」が安定した人気に支えられ好調に販売を伸ばし、売上拡大のリード役を果たすとともに、メダルゲーム機「スーパーマリオ 不思議のころころパーティ」や「エイリアン」も順調に伸長したほか、世代を超えて家族連れなどが楽しめる、「日本全国 加トちゃんのくるくる列車でペ」も健闘いたしました。

この結果、売上高は74億50百万円となり、前期に比べ29億39百万円の増収（前期比65.2%増）となりました。

その他の部門

その他の部門といたしましては、新規事業として開始しましたパチスロ機向け液晶表示基板「鬼武者3」の供給であり、家庭用ゲームソフトとの相乗作用により予想を上回る売行きを示しました。

また、携帯電話向けゲーム配信やライセンス許諾によるロイヤリティ収入も市場動向に即応したマーチャンダイジング戦略などが奏効し、順調に推移いたしました。

この結果、売上高は75億63百万円となり、前期に比べ31億16百万円の増収（前期比70.1%増）となりました。



「プラサカブコン志都呂店」



「エイリアン」

ALIEN TM & © 1979, 2004 Twentieth Century Fox Film Corporation. All Rights Reserved.

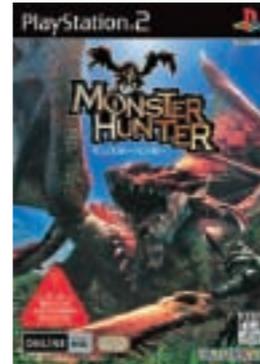


「鬼武者3」

©CAPCOM 2004/ ©Sammy ©RODEO

「モンスターハンター」最優秀賞受賞 —第8回 CESA GAME AWARDS—

「第8回 CESA GAME AWARDS」(主催：社団法人コンピュータエンターテインメント協会)が平成16年10月に開催され、当社の「モンスターハンター」(プレイステーション2用)が最優秀賞に輝くとともに、他のソフトも他部門で数多く受賞するなど、当社ソフトのクオリティに高い評価をいただきました。



©CAPCOM Co., LTD. 2004
ALL RIGHTS RESERVED.



©CAPCOM・小学館・ShoPro・TV 東京
©劇場版ロックマンエグゼ製作委員会 2005

「ロックマン エグゼ」が映画化され 大好評を博しました。

当社のミリオンセラーソフト「ロックマン エグゼ」を題材にした劇場アニメ「ロックマン エグゼ&デュエル・マスターズ」が、平成17年3月12日に全国公開され、上映2日間で全国ナンバー1のヒットとなりました。

●連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成17年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)	科目	期別	当連結会計年度 (平成17年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)
POINT 1 【資産の部】				POINT 2 【負債の部】			
流動資産		78,884	62,957	流動負債		31,344	17,129
現金および預金		43,538	29,809	支払手形および買掛金		8,472	4,497
受取手形および売掛金		14,417	8,922	短期借入金		4,893	6,295
たな卸資産		3,912	4,338	1年以内償還予定の転換社債		12,262	—
ゲームソフト仕掛品		9,399	9,640	賞与引当金		1,137	1,114
繰延税金資産		4,004	4,989	その他		4,578	5,222
その他		4,739	6,421	固定負債		42,525	44,111
貸倒引当金		△1,128	△1,164	転換社債		25,000	37,262
固定資産		27,476	30,138	新株予約権付社債		11,500	—
有形固定資産		13,881	14,577	長期借入金		4,830	5,530
建物および構築物		6,677	6,959	その他		1,195	1,319
アミューズメント施設機器		1,878	2,245	負債合計		73,869	61,241
建設仮勘定		72	11				
その他		5,253	5,360	POINT 3 【資本の部】			
無形固定資産		636	934	資本金		27,581	27,581
投資その他の資産		12,959	14,627	資本剰余金		15,336	24,852
投資有価証券		1,562	2,195	利益剰余金		△4,681	△16,727
繰延税金資産		6,029	7,960	その他有価証券評価差額金		470	589
その他		5,777	8,568	為替換算調整勘定		△1,103	△1,340
貸倒引当金		△410	△4,097	自己株式		△5,111	△3,099
資産合計		106,361	93,096	資本合計		32,491	31,854
				負債、少数株主持分および資本合計		106,361	93,096

POINT 1

POINT 2

POINT 3

【資産の部】
「流動資産」は、78,884百万円(前期比25.3%増)となりました。これは主として、現金および預金が増加したことなどによるものです。
「固定資産」は、「投資その他の資産」の投資有価証券632百万円および繰延税金資産1,930百万円が減少したことなどにより、27,476百万円(前期比8.8%減)となりました。この結果、「資産合計」は、106,361百万円(前期比14.2%増)となりました。

【負債の部】
「流動負債」は、31,344百万円(前期比83.0%増)となりました。これは主に、1年以内償還予定の転換社債の「固定負債」からの振替によるものです。
「固定負債」は、42,525百万円(前期比3.6%減)となりました。これは、転換社債の「流動負債」への振替および新株予約権付社債の発行などによるものです。この結果、「負債合計」は73,869百万円(前期比20.6%増)となりました。

【資本の部】
「資本合計」は、32,491百万円(前期比2.0%増)となりました。主な要因は「利益剰余金」の欠損額が改善されたことによるものであります。

●連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
POINT 4	売上高	65,895	52,668
	売上原価	43,151	37,362
	売上総利益	22,744	15,305
	販売費および一般管理費	14,991	13,902
	営業利益	7,752	1,402
	営業外収益	719	330
	営業外費用	1,073	942
POINT 5	経常利益	7,399	791
	特別利益	66	38
	特別損失	459	7,730
	税金等調整前当期純利益	7,006	△ 6,900
	法人税、住民税および事業税	628	601
	過年度法人税等還付額等	△ 58	△ 71
	法人税等調整額	2,813	1,742
	少数株主損失	—	15
POINT 6	当期純利益	3,622	△ 9,158

●連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
【資本剰余金の部】			
資本剰余金期首残高		24,852	30,471
資本剰余金減少高		9,515	5,619
配当		569	569
自己株式処分差損		0	0
資本金および資本準備金減少差益取崩額		8,945	5,049
資本剰余金期末残高		15,336	24,852
【利益剰余金の部】			
利益剰余金期首残高		△ 16,727	△ 12,049
利益剰余金増加高		12,610	5,049
当期純利益		3,622	—
資本金および資本準備金減少差益取崩額		8,945	5,049
その他の		42	—
利益剰余金減少高		564	9,728
配当		564	569
当期純損		—	9,158
利益剰余金期末残高		△ 4,681	△ 16,727

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,977	5,577
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,099	△ 5,011
財務活動によるキャッシュ・フロー		6,251	△ 395
現金および現金同等物に係る換算差額		277	△ 1,484
現金および現金同等物の増減額		13,406	△ 1,313
現金および現金同等物の期首残高		32,131	33,444
現金および現金同等物の期末残高		45,538	32,131

●貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当 期 (平成17年3月31日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)	科目	期別	当 期 (平成17年3月31日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
【資産の部】				【負債の部】			
流動資産		63,487	51,162	流動負債		27,754	14,748
現金および預金		30,740	20,340	支払手形		2,533	1,008
売掛金		12,694	8,833	買掛金		4,009	2,511
有価証券		1,999	1,532	短期借入金		4,193	5,595
製品		2,005	1,974	1年以内償還予定の転換社債		12,262	—
ゲームソフト仕掛品		9,249	9,883	未払金		2,075	2,468
前払費用		802	1,332	未払法人税等		234	38
繰延税金資産		2,300	2,594	未払消費税等		175	149
短期貸付金		6,636	7,827	未払費用		889	1,098
その他		2,890	2,295	その他		1,381	1,877
貸倒引当金		△ 5,831	△ 5,451	固定負債		37,702	38,550
固定資産		41,931	42,524	転換社債		25,000	37,262
有形固定資産		2,678	3,047	新株予約権付社債		11,500	—
無形固定資産		616	918	退職給付引当金		740	847
投資その他の資産		38,636	38,559	長期預り金		461	441
				負債合計		65,457	53,299
				【資本の部】			
				資本金		27,581	27,581
				資本剰余金		15,336	24,852
				利益剰余金		2,192	△ 8,945
				当期末処分利益		2,192	△ 8,945
				その他有価証券評価差額金		△ 36	—
				自己株式		△ 5,111	△ 3,099
				資本合計		39,961	40,387
				負債および資本合計		105,418	93,687
資産合計		105,418	93,687				

POINT 4 売上高

「売上高」は、65,895百万円(前期比25.1%増)となりました。部門別では、コンシューマ用機器部門39,985百万円(前期比17.8%増)、アミューズメント施設部門10,934百万円(前期比11.2%増)であり、中でも業務用機器部門7,450百万円(前期比65.2%増)およびその他の部門7,563百万円(前期比70.1%増)が大幅に伸びました。

POINT 5 経常利益

「経常利益」は、売上増に加え、売上原価率や販売費および一般管理費比率の改善などにより、7,399百万円(前期比835.4%増)となりました。

POINT 6 当期純利益

「当期純利益」は、営業利益や経常利益の改善に加え、特別損失が大幅に減少したため、前期の9,158百万円の当期純損失から、3,622百万円の当期純利益となりました。

● 損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	
	当期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
売上高	47,542	45,103
売上原価	33,467	30,691
販売費および一般管理費	8,476	8,763
営業利益	5,598	5,649
営業外収益	689	376
営業外費用	745	672
経常利益	5,542	5,353
特別利益	—	4
特別損失	338	10,888
税引前当期純利益	5,203	△ 5,531
法人税、住民税および事業税	262	554
過年度法人税等還付額等	△ 57	△ 71
法人税等調整額	2,241	2,362
当期純利益	2,757	△ 8,376
中間配当額	564	569
当期末処分利益	2,192	△ 8,945

● 利益処分

(単位:円)

科目	期別	
	当期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
〈当期末処分利益の処分〉		
当期末処分利益	2,192,313,521	
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金 (1株につき10円)	549,694,320	
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	60,000,000 (6,000,000)	
次期繰越利益	1,582,619,201	
〈その他資本剰余金の処分〉		
その他資本剰余金残高	7,870,857,292	
資本金および資本準備金減少差益	7,865,792,484	
自己株式処分差益	5,064,808	
これを次のとおり処分いたします。		
その他資本剰余金次期繰越額	7,870,857,292	
資本金および資本準備金減少差益	7,865,792,484	
自己株式処分差益	5,064,808	

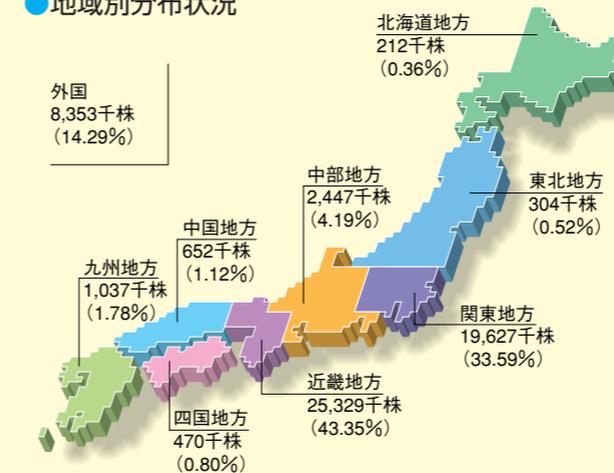
(注) 平成16年12月3日に564,716,020円(1株につき10円)の中間配当を実施いたしました。

- 会社が発行する株式の総数 150,000,000株
- 発行済株式の総数 58,435,819株
- 株主数 26,200名
- 大株主(上位10名)

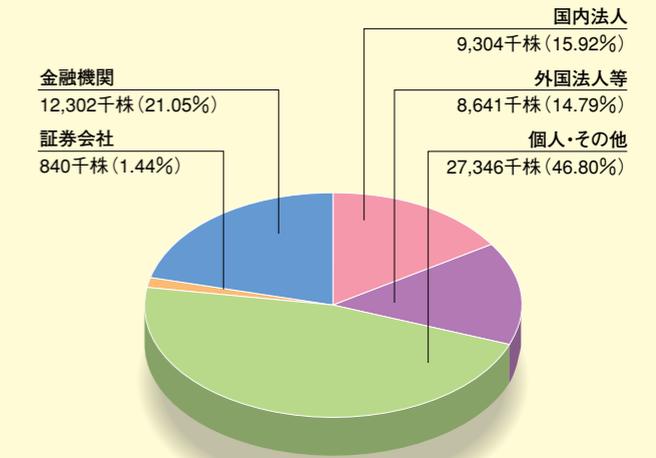
株主名	持株数 千株	出資比率 %
有限会社クロスロード	6,771	11.59
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	3,818	6.53
辻本憲三	2,900	4.96
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	2,658	4.55
辻本美之	1,669	2.86
辻本良三	1,545	2.65
辻本春弘	1,545	2.64
有限会社ケンゾー	1,170	2.00
辻本美佐子	895	1.53
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	797	1.36

(注) 当社は、自己株式3,466千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

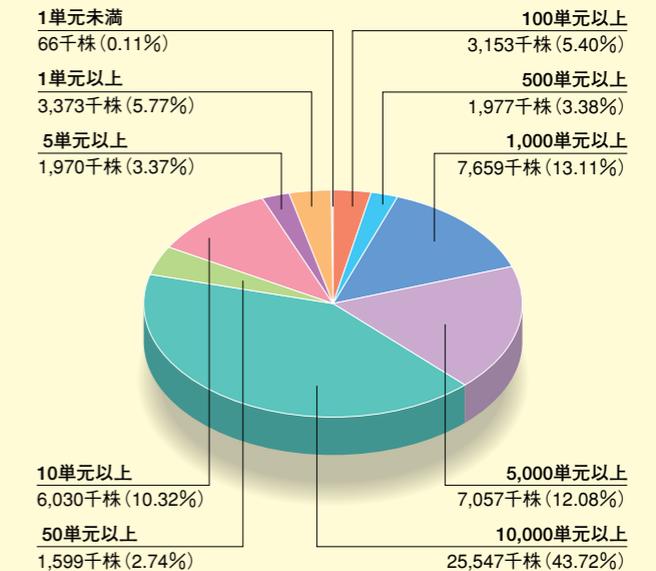
● 地域別分布状況



● 所有者別分布状況



● 所有株数別分布状況



子法人等の状況 (平成17年3月31日現在)

会社名	資本金	主な事業内容
カプコンU.S.A.,INC.(米国)	159,949千米ドル	持株会社、米国子会社の管理
カプコン・エンタテインメント,INC.(米国)	1,000千米ドル	家庭用ゲームソフトの販売
カプコン・スタジオ8,INC.(米国)	1,000千米ドル	ゲームソフトの開発
カプコン・ユーロソフトLTD.(英国)	5,000千ポンド	家庭用ゲームソフトの販売
株式会社ステイタス	32百万円	金融業
株式会社カプトロン	1,640百万円	不動産の賃貸および管理
カプコンアジアCO.,LTD.(香港)	21,500千香港ドル	家庭用ゲームソフトの販売
株式会社フラグシップ	70百万円	ゲームソフトの企画、開発
カプコンチャーボ株式会社	300百万円	携帯電話用充電器の販売、レンタル
クローバースタジオ株式会社	90百万円	ゲームソフトの企画、開発
CE・ヨーロッパLTD.(英国)	1,000千ポンド	家庭用ゲームソフトの販売
CEG・インタラクティブ・エンタテインメントGmbH(ドイツ)	25千ユーロ	家庭用ゲームソフトの販売

(注)株式会社ステイタスは、現在清算結了に向けて作業を進めております。

役員の状況 (平成17年6月21日現在)

●取締役および監査役

代表取締役社長	辻本 憲三	監査役(常勤)	山口 省二
取締役(専務執行役員)	辻本 春弘	監査役(常勤)	平尾 一氏
取締役(専務執行役員)	小田 民雄	監査役	黒田 守雄
取締役(常務執行役員)	飛澤 宏	監査役	中山 好雄
取締役(常務執行役員)	初野 純孝		
取締役	北村 恭二		
取締役	堀 紘一		
取締役	家近 正直		



本社ビル

(注)1. 取締役 北村恭二、堀 紘一および家近正直の各氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
2. 監査役 山口省二、黒田守雄および中山好雄の各氏は、株式会社の監査等に関する商法の特別に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

● IR ホームページをご利用ください ●

当社では、株主や投資家の皆様に当社の最新情報をタイムリーに提供することを目的として、ホームページを活用したIR活動にも注力しております。IRホームページでは、財務データや株式情報に加え、経営戦略など様々な情報提供を行っております。



当社のホームページは、大和インベスター・リレーションズ株式会社の「インターネットIR優秀企業賞」を3年連続受賞しております。



● パソコンからご利用の場合 ●

<http://www.capcom.co.jp/ir/>

IR

業績概要

財務情報

IR資料集

カプコンIRメール

メールアドレスをご登録いただきますと、プレスリリースや決算資料などの最新情報を電子メールでお知らせいたします。

決算説明会の動画や財務資料をご覧いただけます。



● 携帯電話からご利用の場合 ●

<http://m-ir.jp/c/9697>

業績概況や株式情報などが閲覧できます

カプコン
コード：9697
市場：東証・大証
業種：情報・通信
代表取締役社長
辻本 憲三

- ◆会社概要
- ◆企業理念
- ◆事業内容
- ◆業績概況

◇終値を見る

株価の終値を毎日お知らせいたします

◆QRコードの読み取りに対応した携帯電話をお持ちの方は下の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。

※ご使用方法は各携帯電話機の取扱説明書をご覧ください。

